

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
稲畑廣太郎	郭公や風すべりゆく千枚田	津市	野田三枝子
稲畑廣太郎	人混みに孤独のありし花火の夜	常滑市	三浦幸華子
稲畑廣太郎	宇宙へと花上げてゆく立葵	三木市	吉田知子
稲畑廣太郎	万緑の山動かして雨意の風	伊賀市	和田好子
稲畑廣太郎	青嵐谷間に樹々の木霊かな	津市	藪内純治
稲畑廣太郎	白靴の汚れに残る旅情かな	名張市	福山悦子
稲畑廣太郎	すぐ消えてしまふ思ひ出螢の夜	津市	坂中徳子
稲畑廣太郎	池の鯉底でゆらりと寒明くる	金沢市	山ノ内敏隆
稲畑廣太郎	珠洲の潮汲む人なしに遠霞	練馬区	淵田芥門
稲畑廣太郎	縁側は気楽な客間新茶汲む	四日市市	丹羽みどり
稲畑廣太郎	筍の竹となる夢うばひけり	鈴鹿市	古川和子
稲畑廣太郎	結界は人の世のこと時鳥	津市	森本宏子
稲畑廣太郎	昨日とは違ふ今朝の香梅雨晴間	伊賀市	前出公子

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
稲畑 廣太郎	噴水の高きを乱す風荒るる	伊賀市	前出 美千子
稲畑 廣太郎	バンガローすぐ夜が来て朝が来て	神戸市	藤井 啓子
稲畑 廣太郎	空蟬の背を縫ふ糸を持たざりし	さぬき市	原 道子
稲畑 廣太郎	入学子散歩に背負ふランドセル	伊賀市	中岡 圓水
稲畑 廣太郎	一徹な生き方通す蟻地獄	前橋市	小池 志津女
稲畑 廣太郎	山頂へ選び歩したる木下闇	伊賀市	権 蛇 邦子
稲畑 廣太郎	風はまだ梅一輪の硬さかな	北区	破 れ 蓮
井上 弘美	白きまで月に透きみる桜かな	杉並区	田中 佳子
井上 弘美	オオカミのいま幻聴の伊賀の冬	国分寺市	湯口 昌彦
井上 弘美	星月夜写譜の極黒インクかな	江戸川区	坂本 昭子
井上 弘美	函入りの火薬秘伝書夏深し	文京区	市村 和湖
井上 弘美	漆黒の山尖りゆく滝の音	調布市	岸 根 明
井上 弘美	蕉門の末端にゐて糸とんぼ	妙高市	井澤 秀峰

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
井上弘美	宵涼し御簾の内なる写し面	川崎市	小野美智子
井上弘美	生絹もて鏡面みがく蛍かな	八王子市	大山妙子
井上弘美	かりそめの仏土か風の牡丹園	京田辺市	加藤草児
井上弘美	馬止めに辻別れゆく合歓の花	名古屋市	尾崎登代
井上弘美	星型の護符胸の上に海女昼寝	四日市市	西尾泰一
井上弘美	花莫菴の花をつまめる赤子かな	府中市	日暮原子
井上弘美	湧水のコップを満たす夜の秋	調布市	五味新悟
井上弘美	廃校のガラスに映る夕桜	伊賀市	後藤由美子
井上弘美	流木の藻屑の乾く油照	福岡市	安東ヒサ子
井上弘美	入鋏の改札が開く土用あい	三田市	山崎倫子
井上弘美	伊賀電車茅花流しの中を過ぐ	伊賀市	下村哲朗
井上弘美	切り先のそろふ江戸刷毛薄暑かな	目黒区	高山真木子
井上弘美	木漏れ日の円座に揺るゝ釣月軒	伊賀市	森中幸枝

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
井上弘美	蓮根のどこを切つても春めける	中央区	島崎季子
井上康明	軒下のひと粒の泥初燕	伊賀市	坂石佳音
井上康明	残生はあるがままにと今年竹	北杜市	小泉操
井上康明	道削る音して山車の辻廻し	弥富市	富田範保
井上康明	雲走りをり湧き上がり迎え梅雨	桜井市	中佐代美
井上康明	たらたらと無垢の太陽田草取	北杜市	池永早知子
井上康明	よるこびの星が飛び散る水団扇	横浜市	三玉一郎
井上康明	たけのこの猪皮まとひ横たはる	伊賀市	河口亨
井上康明	短距離が得意な父のカンカン帽	宇治市	能勢勇
井上康明	春雷や四本爪の龍の絵図	北杜市	小泉優子
井上康明	尻に花生絹の布を胡瓜つけ	小平市	中澤清
井上康明	雲の峰戦闘帽の遺影なり	笛吹市	赤尾和子
井上康明	捨畑の抱卵の雉子動かざる	韮崎市	長坂泰子

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
井上康明	本尊は石棒一つ青葉闇	北杜市	浅川律子
井上康明	磯祠処暑の白波あがりけり	横浜市	石川孝子
井上康明	残照の村は藁色桃青忌	北杜市	八代菜美子
井上康明	鍵かけることなき島の鬼やらひ	練馬区	曾根新五郎
井上康明	雲が雲押し上げてゐる草いきれ	甲斐市	渡辺多津志
井上康明	尋め当てし翁の句碑やほととぎす	名古屋市	光田道子
井上康明	つくしんぼ妹急かす姉の声	三好市	田野利明
井上康明	象潟や潟は田となり遠蛙	小牧市	鈴木年春
小川軽舟	花冷えの街に止まり木探しけり	東広島市	福岡宏
小川軽舟	抜き手切る水の軽さや青岬	伊賀市	山島美紀
小川軽舟	緑蔭や後ろ脚より駱駝起つ	三重県	伊藤かおり
小川軽舟	明日まではうちの姓の子稲の花	伊賀市	坂石佳音
小川軽舟	鍋の蓋切つて芋煮る霜夜かな	板橋区	井上茅

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
小川 軽舟	縁側に開く夕刊虫すだく	龍ヶ崎市	遠藤 奈美子
小川 軽舟	サル山に猿の上らぬ暑さかな	津市	渡邊 健治
小川 軽舟	うららかや寄港のチャイム島ぢゆうに	寝屋川市	川上 純一
小川 軽舟	高下駄を鳴らし板前祭前	吹田市	清田 檀
小川 軽舟	草稿のブルーブラック寒昂	諏訪市	北川 みや子
小川 軽舟	大川は今も大川月涼し	狭山市	林田 美音
小川 軽舟	船宿の窓の下まで青葉潮	横浜市	橋本 直樹
小川 軽舟	門前に寺伝読みみる炎暑かな	愛知県	鳴海 浅葱
小川 軽舟	島路地を抜けて廃校棕櫚の花	伊勢市	三ツ矢 龍美
小川 軽舟	夏潮のうねりの中へ舵を切る	四日市市	伊藤 和子
小川 軽舟	茄子蒔きて単身赴任続きたる	京田辺市	加藤 草児
小川 軽舟	くるくると日傘巻く手の白さかな	名古屋市	田中 加保里
小川 軽舟	稲妻や星座散り散りばらばらに	岡崎市	山田 禮子

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
小川 軽舟	曲がり角一つ間違ふ春の暮	中野区	大久保 なほ子
小川 軽舟	胸元に鳥のブローチ夏来たる	福島市	蒲倉 琴子
小澤 實	宮入りの神輿上下に煽りけり	杉並区	岡本 春水
小澤 實	山蛭を乳房につけて牛戻る	福島県	黒澤 正行
小澤 實	御田植禰宜も巫子らもかちはだし	泉佐野市	岡本 炎弥子
小澤 實	石段に白粉花の種こぼれ	伊賀市	池村 悦子
小澤 實	赤松の張り出せる枝居待月	杉並区	大木 由美子
小澤 實	遠雷や雲母を刷きたる魚類図譜	文京区	市村 和湖
小澤 實	池上本門寺祈る手に蟻のぼる	那須塩原市	阿部 多恵子
小澤 實	もう空を映さざる丈青田波	神戸市	堀 瞳子
小澤 實	突堤を打ちしぶく浪夏来たる	福岡市	安東 ヒサ子
小澤 實	遠巻きに猿の見てゐる栗拾ひ	茅ヶ崎市	塚本 治彦
小澤 實	空き瓶に西日のあたるあつさかな	横浜市	加藤 多作

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
小澤 實	夏シャツのトリコロールの釦かな	葛飾区	川角 由美子
小澤 實	蚊遣火の煙はよぢれつつ上る	江南市	山口 南海子
小澤 實	向き合ひて笑顔の主治医目の涼し	名張市	森 川 和
小澤 實	雲梯を渡り終へし手息白し	八代市	清水 明美
小澤 實	ハンガーの錆びし鴉の古巣かな	名張市	森岡 秀美
小澤 實	鶏小屋を出て緑陰の鶏となる	伊勢市	久世 伸子
小澤 實	滝音に掻き消されをり妻の声	春日部市	石原 道明
小澤 實	雨上がりホテルの後をついていく	伊賀市	井上 亜古
小澤 實	高だかと山湖の御空鷹一つ	寝屋川市	川上 純一
權未知子	今年竹戦ぐは雲を呼ぶごとし	大田区	佐瀬 はま代
權未知子	転職の果ての天職雲の峰	三重県	梅枝 あゆみ
權未知子	たまゆらの闇に力点流れ星	板橋区	笠原 みわ子
權未知子	おほかたの神は気まぐれ蛇苺	川崎市	百田 広香

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
権未知子	蜘蛛の子のすでに銀糸を持て生まる	伊賀市	永井みよ
権未知子	鶏頭の隣に風を見付けたり	岐阜市	芝田太
権未知子	調律の終はらぬピアノ大夕立	葛飾区	朱間繭生
権未知子	畑行くも命がけなる溽暑かな	伊賀市	福田容子
権未知子	ゆらぐ灯の百物語麻衣	大田区	真隅素子
権未知子	背中より教師の匂ひ夕薄暑	志摩市	松村正之
権未知子	ゆたかなる冬日が杖に翁の忌	小平市	大月弓香
権未知子	かぎろひの道を研師の来たりけり	中野区	中田千恵子
権未知子	白髪は月より淡し干菜汁	東久留米市	川目紫
権未知子	花篝揚げばふいに夜叉ごころ	京都市	横滝友子
権未知子	虫売のおほかたは闇かもしれず	藤沢市	矢野みはる
権未知子	春星や父の遺品に父の文字	葛飾区	川角由美子
権未知子	秋うらら優しき声の療法士	名古屋市	山田由美子

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
權未知子	飛火野の雨にうたるる落し角	岡崎市	中根由起子
權未知子	青空が音立てはじむ袋掛	文京区	鶴巻貴代美
權未知子	抱きあやす赤子ずつしり朧月	伊賀市	神尾早智子
坂口緑志	大茅の輪伊賀の山並雫して	伊賀市	三浦直美
坂口緑志	あかつきの一番藍を濡れて刈る	豊明市	尾崎恵美子
坂口緑志	伊賀の鶯俳聖殿に音を入るる	名古屋市	駒木逸歩
坂口緑志	滝の水貰ひ滝描く絵の具溶く	名古屋市	市之瀬肇
坂口緑志	花火見て来し下駄海の砂を噛む	江南市	山口南海子
坂口緑志	緑陰に神馬目を閉ぢ微睡みぬ	三重県	湊松時
坂口緑志	梅雨入りや襖の松もみどり増す	伊賀市	三山隆一
坂口緑志	樗良句碑に朝日差しみる蝉時雨	伊勢市	三ツ矢花野子
坂口緑志	丁石に烏瓜咲く翁径	伊賀市	土井陽代
坂口緑志	思ひ出の音色取り出す貝風鈴	三重県	金津やよい

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
坂口 緑志	松籟や二見が浦に夏燕	三重県	下地 ゆきよ
坂口 緑志	嫁してなほ伊勢の「な」言葉菜を洗ふ	門真市	川上 なみ子
坂口 緑志	熊野桜移植の伊勢に芽吹き初む	三重県	湊 富美子
坂口 緑志	伝はらぬ言葉のありぬ揚雲雀	津市	坂中 徳子
坂口 緑志	霹靂神激し小泉八雲故居	境港市	阿部 はる
坂口 緑志	初がつお藁のけぶりも味の内	四日市市	麻生 七子
坂口 緑志	広島忌「平和の鐘」を打ち鳴らせ	加古川市	野原 由紀
坂口 緑志	藪騒に瑠璃鶺とぶ光琳忌	伊賀市	永井 みよ
坂口 緑志	戦まだ終はらぬ国へ鳥帰る	札幌市	藤林 正則
坂口 緑志	母の忌に続く芙美子忌合歡の花	伊賀市	島井 節
谷口 智行	ふるさとの筍飯のかしこくて	奈良市	和田 康
谷口 智行	紀州檜野猿でおろす夏の山	三重県	湊 松 峙
谷口 智行	日向へと枯蟪蛄を移しけり	伊賀市	森本文子

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
谷口智行	拳もて絞むる一撃障泥烏賊	今治市	森 實 美 知
谷口智行	熱帯夜ですねと網戸越しの声	紀の川市	中 島 紀 生
谷口智行	曙光に翳す泰山木の花	新宮市	中 村 盛 春
谷口智行	浜小屋に残る煙突小女子漁	津市	服 部 美 佐 子
谷口智行	紅花を供ふ真昼の故郷塚	伊賀市	権 蛇 邦 子
谷口智行	ただならぬ世にとろとろの納豆汁	奈良市	和 田 康
谷口智行	頼みなき看取つづきぬ虫時雨	尼崎市	森 山 久 代
谷口智行	日向ぼこ昔の人を誉め合うて	岡山県	西 村 泉
谷口智行	石も又流人の墓や青葉木菟	広島市	森 本 弘 子
谷口智行	冬の雲流れ翁の旅続く	豊中市	渡 辺 美 紀 代
谷口智行	大空へ角振り立てり蝸牛	伊賀市	箱 林 の ぶ 子
谷口智行	最終は酒米二枚刈り収む	伊賀市	米 田 朝 子
谷口智行	花栗や叔母に抱かれし日の記憶	松阪市	池 田 緑 人

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
谷口智行	河鹿笛戻りもならぬ蔓橋	鈴鹿市	山中悦子
谷口智行	兄弟はいつも丸刈金魚玉	生駒市	富田美子
谷口智行	句帳にも靴にも蟻の入り来たり	奈良県	濱田武寿
谷口智行	朴の花角度変へれば三つ見え	今治市	渡辺芳子
西村和子	奥伊賀の闇深々と初螢	伊賀市	山下久美
西村和子	髪洗ふ明日の予定なけれども	津市	白木ひろ海
西村和子	たんぽぽや体育館の声若し	津市	渡邊健治
西村和子	啓蟄の土跳ね上げて調教馬	大府市	井村晏通
西村和子	はまなすやサラブレットの終の家	那須塩原市	津久井知子
西村和子	色あせたエプロンたたむ夜の秋	大津市	太田怒忘
西村和子	真夜中の雪の気配に目覚めけり	西尾市	金子恵美
西村和子	今頃は機上の人か大夕焼	志摩市	浜口久美子
西村和子	岬鼻に咬み合ふ波や鷹柱	名古屋市	市之瀬肇

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
西村和子	みちのくの時雨に濡れし旅衣	鳥取県	坂口恵子
西村和子	形代の独りを保ちつつ流る	三重県	武田巨子
西村和子	寮生の騒ぎ収まる夜長かな	神戸市	松元一師
西村和子	法隆寺まで蝶々にいざなはれ	静岡市	堀和久
西村和子	門限を忘れてしまふ螢の夜	甲賀市	山中佳鈴
西村和子	日の出待つ白装束や夏至祭	伊賀市	辻本雅子
西村和子	遠足を語るおでこの絆創膏	桜井市	中佐代美
西村和子	聞き役が自づと決まる日向ぼこ	神戸市	岸下庄二
西村和子	少年に眩しき母のレース服	西尾市	齋藤朗笛
西村和子	みづうみへ続く青田の照り翳り	栗東市	小野雅子
西村和子	戸隠の山気をはらふ初音かな	半田市	矢浦みち子
長谷川 權	みどり児も元気に読経法師蟬	山陽小野田市	磯谷祐三
長谷川 權	大浪に攫はれ亀の子消失す	半田市	新美達夫

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
長谷川 權	あぢさゐの未だしづかなる花のいろ	志木市	真尾 公子
長谷川 權	巡礼のごとく山へと蟹の列	岩倉市	山田 雅弘
長谷川 權	大空に墨のこぼれて梅雨に入る	伊賀市	大野 利江
長谷川 權	古団扇風にわすれてきてしまふ	横浜市	三玉 一郎
長谷川 權	我が杖にしたきや美形の枯枝を	知多市	阪本 厚子
長谷川 權	凍て蝶のふたつ生き様似て非なり	御坊市	林 晋作
長谷川 權	虫籠の虫の夜長やわが夜長	長崎県	山口 美由喜
長谷川 權	眼光の鋭きが哀れや羽抜鶏	大府市	井村 晏通
長谷川 權	この店の鰻を愛でし友遠し	伊賀市	西野 登志子
長谷川 權	リハビリと励む背泳ぎ平泳ぎ	伊賀市	松本 美代子
長谷川 權	蝸やかつて原発予定の地	伊賀市	福田 容子
長谷川 權	夏の川夜の音となりうたたねす	伊賀市	佐藤 由美子
長谷川 權	この杜はすべて神木木菟鳴けり	東海市	斉藤 浩美

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
長谷川 權	囀鮎しかとねぎらひ納竿す	明石市	榎野 実
長谷川 權	故里の川遡る夏休	東松山市	松下 弘美
長谷川 權	宮川の堤しろじろ花月夜	尾鷲市	湯浅 桃代
長谷川 權	虫の声聞こえぬといふ夫愛し	名古屋市	河瀬 嘉江
長谷川 權	針を置く古きレコード時雨の忌	周南市	吉浦 百合子
星野 椿	笹百合や翁越えたる峠径	伊賀市	佐々木 経子
星野 椿	秋思ふと人の心の見ゆるとき	松阪市	小川 寧子
星野 椿	出航の銅鑼や霧晴れ利尻富士	世田谷区	富山 光義
星野 椿	栗飯や伊賀の土鍋を土産とす	西脇市	小西 俊主
星野 椿	さわやかや窯出し器ひそと鳴る	四日市市	落合 智恵子
星野 椿	在祭手締め上手の村の長	名張市	奥村 泰弘
星野 椿	旅に果つこともまたよし翁の忌	伊万里市	萩原 豊彦
星野 椿	虚子と子規いつも心に翁の日	河内長野市	中西 博雅

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
星野椿	虚子の書の紙魚よせまじく書庫へ風	伊賀市	西澤与志子
星野椿	一噸の提灯を吊り浦祭	西尾市	蓮沼たけし
星野椿	むらさきの化身の如く立子の忌	三木市	岡本やすし
星野椿	馬冊続きマーガレットや白き浪	川崎市	佐々木光野
星野椿	八角の姿涼しき俳聖殿	茅ヶ崎市	岩崎絵美
星野椿	長生きの島の明日葉畑かな	練馬区	曾根新五郎
星野椿	家康の産湯の井戸や蝸牛	さいたま市	三浦梢
星野椿	ふるさとや山河静かに秋の色	名張市	長野和生
星野椿	虚子塔にぬかづく落葉踏みしめて	伊賀市	森中幸枝
星野椿	闇へ吐く深山の吐息青葉木菟	伊賀市	岡島千秋
星野椿	六人が今は二人の炬燵かな	伊賀市	濱幸子
星野椿	落ちてなほ天仰ぎたり夏椿	伊賀市	箱林のぶ子
堀本裕樹	ラグビーの巨軀芝つけしままの頬	伊賀市	中森里江

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
堀本裕樹	彼の部屋ピアス忍ばず冷蔵庫	越谷市	小田 毬 藻
堀本裕樹	ひとしきり笑ったあとの春の闇	豊川市	鈴木 歌 織
堀本裕樹	父と子の声の透きくる青簾	志摩市	手塚 泰 子
堀本裕樹	嬰兒の一糸まとはぬ良夜かな	京都市	林 游 実 子
堀本裕樹	エレキギター真夏の夜を乗っ取って	明石市	阪上 真 吾
堀本裕樹	亀の四肢ひらりひらりと梅雨の池	愛知県	下保木 淳 子
堀本裕樹	夕爾忌や詩を刻みたるさびしき手	豊橋市	岡野 寛 十 郎
堀本裕樹	神木の注連縄に添ふ蛇の衣	新宮市	中 森 常 夫
堀本裕樹	雀には雀の暮らし鳥帰る	横浜市	沼 宮 内 薫
堀本裕樹	子の話つづきのありてラムネ抜く	名古屋市	光 田 道 子
堀本裕樹	蜥蜴去る展望台に海を見て	善通寺市	合 田 豊
堀本裕樹	片蔭や猫に見らるる蟹歩き	宇陀市	小 倉 貴 弘
堀本裕樹	木から木へ真鶉追ひ追ふ鈴の声	四日市市	井 戸 康 子

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
堀本裕樹	十六夜の壁に影濃きギターかな	堺市	森野哲州
堀本裕樹	少年になりたき少女サングラス	伊勢市	三ツ矢龍美
堀本裕樹	団栗の落ちて弾みし大地の香	前橋市	田村信子
堀本裕樹	キャッチャーの真上にノック雲の峰	半田市	新美達夫
堀本裕樹	茫茫たる紺碧の海夏来る	尾鷲市	高芝美智子
堀本裕樹	途中から手袋はずす拍手かな	名張市	森永侑樹
正木ゆう子	出生地知らず老ひたる終戦日	東海市	鰐部玉扇
正木ゆう子	大胆な姿見せられ扇風機	土浦市	貝塚勇
正木ゆう子	天地の濡れて月あり沙羅の花	阿南市	阿部ますみ
正木ゆう子	輪郭をほどけば水となるくらげ	岡崎市	寺尾当卯
正木ゆう子	金魚草下から順に鱗脱ぐ	川口市	篠原葦
正木ゆう子	いま少し揺らぐ花野に身を預け	四日市市	赤塚靖子
正木ゆう子	茅の輪とふ神の水輪をくぐりけり	横浜市	三玉一郎

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
正木 ゆう子	アンパンマンのTシャツで来る見舞かな	伊勢市	西川 幸美
正木 ゆう子	うららかや材料三つのケーキ焼く	名張市	森永 真里奈
正木 ゆう子	香水を一滴机には手紙	文京区	梶田 祥子
正木 ゆう子	月涼しフェリーの中で書く手紙	和歌山市	中浴 智美
正木 ゆう子	ジキタリス泣けば頭痛の残る質	伊賀市	小川 ひとみ
正木 ゆう子	妻もまた西瓜を一つ買い帰る	宍粟市	宗平 圭司
正木 ゆう子	春めくや惚れた証拠の突慳貪	岡山県	西村 泉
正木 ゆう子	ふらふらとをさなの素足抱かれたる	京都市	宇野 恭子
正木 ゆう子	春愁をひと払ひする猫の伸び	四日市市	富田 みちる
正木 ゆう子	豆力士負けるが先に柏餅	名古屋市	河井 功夫
正木 ゆう子	外の蝶を見てをるか風を見てをるか	春日井市	田代 ふう
正木 ゆう子	ラベンダー抱く全身を香らせて	伊賀市	前出 美千子
正木 ゆう子	枝豆の産毛朝日にきらめきて	伊賀市	中出 泰衣

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
三村純也	卒寿過ぎなほ旅心翁の忌	米子市	堀江典子
三村純也	空へ噴き上がりて枝垂桜かな	桜井市	中博司
三村純也	うかつにも触れてしまひし夜の桃	名古屋市	小原あつ子
三村純也	秋風や茶屋の柱の刀傷	松阪市	平田冬か
三村純也	蜘蛛の囿に編み込まれたる光かな	堺市	内田陽子
三村純也	ともかくも歩く覚悟の紅葉狩	長岡京市	藤堂くにを
三村純也	鳴き声は全く出さず牛角力	宝塚市	広田祝世
三村純也	初夢の芭蕉の声音残りけり	三木市	岡本やすし
三村純也	とくとくの泉に蟹の棲みつける	大阪市	山内繭彦
三村純也	団栗の転げるための丸みかな	三重県	石井洋子
三村純也	海原へ祭囃子の練りゆけり	つくば市	伊藤淳
三村純也	驟雨過ぎ湯気立つ道を急ぎけり	伊賀市	馬場俊行
三村純也	掘りたての新玉葱のバケツ売り	大府市	加藤じゅん

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
三村純也	クリスマスホットワインの湯気に酔ふ	四日市市	落合 智恵子
三村純也	布団干す育児休暇の男親	宇治市	小西 尚美
三村純也	吊橋を尻つ放り腰のサングラス	藤井寺市	川原 哲郎
三村純也	蝸払ひ覗く加賀藩流刑小屋	広島市	森本 弘子
三村純也	身に入むや日にち薬といふくすり	吹田市	西村 妙子
三村純也	境内に百台集ふ草刈機	岡山県	藤田 明子
三村純也	力抜き吹けば鳴りだす瓢の笛	常滑市	鈴木 黄磁
宮坂静生	ふるさとを齋く雨音木の根明く	安曇野市	穂 莉 真 泉
宮坂静生	白妙の産衣をたたむ慰霊の日	横浜市	有 手 勉
宮坂静生	右耳を引つぱつてゐる遠蛙	横浜市	前 島 康 樹
宮坂静生	逝く春を寂寞として鳥けもの	名古屋市	谷 中 弘 子
宮坂静生	登頂や花かたくりを道すながら	札幌市	佐藤 多美子
宮坂静生	出稼ぎは沖縄からや利尻夏	茅野市	加藤 律子

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
宮坂 静生	猪独活は広き食卓みな来なよ	塩尻市	古畑 富美江
宮坂 静生	天地をぐらりと揺らし揚花火	足立区	木幡 忠文
宮坂 静生	鮓食うてラストシーンのどうのこの	大阪市	北芝 ゆう子
宮坂 静生	貝風鈴改札口を通り過ぎ	松本市	浜 智子
宮坂 静生	近江なる弓削の火祭たかだかと	伊賀市	福沢 義男
宮坂 静生	神となる日を待つ樅や木の根明る	長野県	荻上 憲治
宮坂 静生	修司忌や幕間の青きラムネ壺	世田谷区	野上 卓
宮坂 静生	田草取る中学生の日曜日	柏市	佐藤 敏文
宮坂 静生	三段の滝三段の懸り藤	小牧市	岩井 新川
宮坂 静生	鯖雲や大吊橋を起点とす	京都市	宇野 恭子
宮坂 静生	採血に握るこぶしや日雷	伊賀市	森口 水江
宮坂 静生	鈴鹿嶺に早駆けの雲桃青忌	白山市	瀬川 恵
宮坂 静生	災天の最後の牛のわかれかな	近江八幡市	八田 喜代美

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
宮坂 静生	校長室へプールの声のあふれ来る	伊賀市	森 永 宏
宮田 正和	海坂は雲湧くところ夏盛ん	豊見城市	古波 蔵 里子
宮田 正和	歳時記を繕ふ母の梅雨ごもり	稲城市	児玉 真知子
宮田 正和	洗ひ髪懇ろに梳く少女の夜	川口市	滝本 史代
宮田 正和	炎天の子らに大きな樟の影	川口市	横山 里子
宮田 正和	新茶汲む水の旨さを誉められて	志摩市	西尾 敬一
宮田 正和	ふるさとは捨田ばかりや夏つばめ	志摩市	松村 正之
宮田 正和	遠雷や遠ざかるもの美しく	伊勢市	三ツ矢 龍美
宮田 正和	トンネルを出るたび紀伊の青山河	志摩市	太田 貴美子
宮田 正和	空を掃きいらかを掃きて破芭蕉	四日市市	佐藤 径
宮田 正和	かなかなの鳴けば俄や窓暮るる	伊賀市	桑原 智代美
宮田 正和	若き母の白き二の腕水鉄砲	三重県	樋口 精一
宮田 正和	時鳥啼けば雨脚粗きかな	伊賀市	岡島 千秋

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
宮田正和	河骨の花が暮れたり翁寺	伊賀市	松尾紀子
宮田正和	花檮けぶるは野川濁るころ	伊賀市	森永康子
宮田正和	大いなる美しき闇初螢	伊賀市	山下久美
宮田正和	月涼し影を一つに山羊親子	伊賀市	谷口千代
宮田正和	青田風薄暮の隠す夫の背ナ	伊賀市	西田ゆかり
宮田正和	戦ぐほど数増して来し合歡の花	伊賀市	小川ひとみ
宮田正和	遠くより見えて青青大茅の輪	伊賀市	西野登志子
宮田正和	義朝墓所露草の白群れみたり	伊賀市	岩倉佳子
片山由美子	先発はすでに降板生ビール	足立区	山崎董久
片山由美子	生憎の昼から雨の運動会	茅ヶ崎市	塚本治彦
片山由美子	生り放題落ち放題の银杏の実	名古屋市	渡辺美智代
片山由美子	潮の香のシャツ脱ぎ捨てて生ビール	松山市	杉山望
片山由美子	山並の藍の濃淡半夏生	川崎市	井上宣孝

□令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
片山由美子	余生とはこんなものかときゅうり揉む	伊賀市	磯矢淳子
片山由美子	松手入すみたる庭へ風生まる	伊賀市	東出了子
片山由美子	垣間見る城下の生活風薫る	鈴鹿市	高尾のり子
片山由美子	風薫る生成りのシャツの心地良し	世田谷区	石川昇
片山由美子	半夏生下駄の鼻緒の生乾き	松江市	GONZA
片山由美子	生返事ばかりの人と日向ぼこ	横浜市	沼宮内薫
片山由美子	生臭き風が抜けゆく蜘蛛の網	世田谷区	野上卓
片山由美子	一掬の光生まるる清水かな	伊賀市	山下文子
片山由美子	香水をふる百歳の誕生日	練馬区	曾根新五郎
片山由美子	油虫打つ時母の生き生きと	土浦市	貝塚勇
片山由美子	大川の人鈴生りの船祭	大田区	関口昭男
片山由美子	終戦日生まれかはりといふ命	城陽市	倉本節子
片山由美子	光より生まれたばかり蓮の花	行田市	吉田春代

令和6年度 芭蕉翁献詠俳句 一般・テーマ部 【入選】

選者	俳句	住所	俳号
片山由美子	生きもののごと柿の皮剥かれゆく	東海市	斉藤浩美
片山由美子	新生児並ぶ産院蝉しぐれ	伊賀市	平島由季子